

2008 年度 小委員会活動成果報告

(2009 年 2 月 3 日作成)

小委員会名	建築教育ネットワーク小委員会		主 査 名：石川孝重 就任年月：2007 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築教育委員会		委員長名：稲葉武司 主 査 名：
設 置 期 間	2007 年 4 月 ～ 2011 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査研究委員会の傘下にある教育小委員会、教育に関して学会が立ち上げる特別調査委員会などの調査・連携をとおして組織化をはかる。 ・ 建築教育の細分化にはじめをかけ、ホリスティックな建築教育の維持を計ることが目的である。 		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：なし		
	石川孝重 (日本女子大学), 伊村則子 (武蔵野大学)		
設置 WG (WG 名：目的)	建築教育共同研究 WG：調査研究委員会の傘下にある教育小委員会、教育に関して学会が立ち上げる特別調査委員会などと連携することを目的に活動する。		
2008 年度予算	150,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/edu/s0/3sub.html	

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (うち、本委員会の後の幹事との打合せ 3 回) (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	建築教育共同研究 WG として開催 1. 第 1 回建築教育共同研究会(2008 年 7 月 8 日)開催 参加者数 17 名 服部岑生先生 (千葉大学) 『建築学会・改正建築士法・産学連携』 2. 第 2 回建築教育共同研究会(2009 年 1 月 26 日)開催 参加者数 21 名 古谷誠章先生 (早稲田大学) 『日本の建築教育－学生の未来のために今何が可能か－』
大会研究集会	1. 教育委員会を母体として、教育部門の研究協議会「建築士制度と今後の学校教育－いま建築教育にもとめられるもの－」を開催した。
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 昨年度から引き続き、学会内での横断的な組織の枠組み作りをすすめた。本年度の大会で研究協議会を開催した。90% 2. 本年度から、横断的な組織である「建築教育共同研究WG」の設置が認められ、活動を開始、研究会を 2 回開催した。90%
委員会活動の問題点・課題	1. 全国から教育に関わる会員に集まってもらい、議論の場を設けることが経費の関係から難しい状況である。(そのこともあり、来年度の学会大会時に研究協議会を開催することにした。) 2. 建築に関わる本学会の横断的な組織となるための体制作りが課題である。 3. 建築教育共同研究WGの組織化 (メンバー募集) およびそのスムーズな運営が課題である。

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。